

国際文化学部だより

No.13

発行/2007年7月27日 山口県立大学国際文化学部 〒753-8502 山口市桜畠3丁目2番1号

(代表)TEL 083(928)0211 FAX 083(928)2251 <http://www.fis.ypu.jp>

新制国際文化学部の誕生

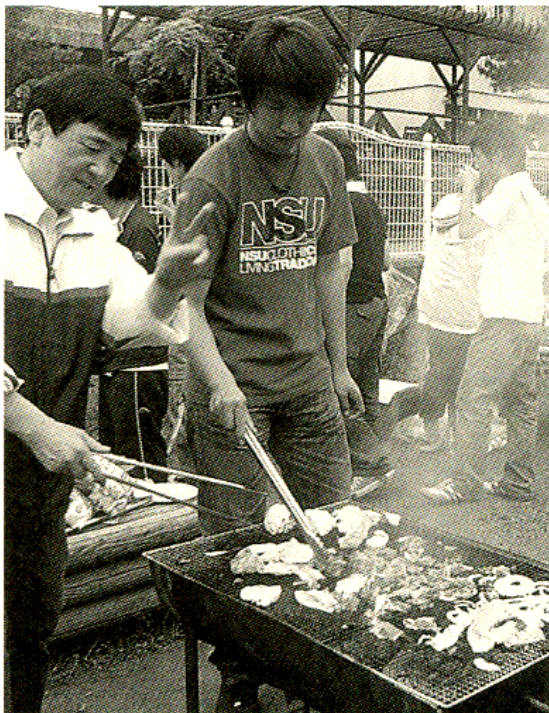
国際文化学部長 松田 理



平成19年度から新制国際文化学部が発足しました。これまで学科は国際文化学科だけでしたが、新たに文化創造学科が増設され、2学科体制となりました。同時に学生定員も増え、国際文化学科60名、文化創造学科50名となり、1学年110名の学部となりました。国際文化学科は「国際的視点を持ち、社会の諸問題を文化という側面から分析する能力と実践的行動力を身につける」ことを目的とした学科で、「政治、宗教、文学など、文化に関する理論を中心に学ぶ」「国際文化系と、「英語、中国語、韓国語を集中的に学ぶ」「言語」「コミュニケーション系に分かれています。もう一方の文化創造学科は「地域文化(たとえば日本文化や山口文化)から埋もれた文化を掘り起こし、また新しい文化を創り出し、それを発信する能力を身につける」ことを目的とした学科で、「日本の文学、歴史、芸能などを中心に学ぶ」「日本文化系と、「芸術、デザイン、企画立案などを中心に学ぶ」「企画プロデュース系に分かれています。

新体制が発足すると、旧体制(旧国際文化学科)に属する2年生以上の学生諸君は自分たちの位置づけに不安を覚えるかもしれません。しかし、その必要は全くありません。新国際文化学科は旧国際文化学科の延長線上にあり、異質の学科ではないからです。2年生以上の諸君は当初の学習計画に沿って悠々と勉学を続けてください。

学部の体制の変化について述べましたが、新体制にせよ旧体制にせよ、学部の真価を決定するのはもちろん体制そのものではありません。それを決定するのは在学生諸君です。勉学の結果として、在学生諸君が真に「生きる力と生かす力」を獲得できるかどうかにかかっているのです。



国際文化学科 新入生歓迎バーベキューパーティー



この度の学部学科再編により、昨年度以前の入学生に対しては従来の国際文化学科の教育の営みを維持しつつ、新入生には新たなカリキュラムを提供することになりました。それは「多文化理解と他文化との交流能力の育成を目的とし、文化や社会の国際化、地域の国際化といった時代の変化や社会のニーズに対応するため、言語コミュニケーション能力や国際的な視点に立った文化理解力、それに基づく行動力などの実践的な能力を備えた人材の育成を目指す」ものです。つまり従来の国際文化学科の教育理念・目標を継承しつつ、実践的な能力の養成に一層重点を置いたものとなっています。お互いに違っていてよいのだということを理解し、違っているという関係が張りめぐらされた現場に臨んで行動する能力をもつ人材の育成を目指します。また2年次から学生は国際文化系と言語コミュニケーション系のいずれかの系に所属します。国際文化系は、異文化・多文化理解の知識や能力、国際的な視野に立った行動力、英語・中国語・韓国語の「話す・聞く」能力などを養成します。言語コミュニケーション系は、英語コース・中国語コース・韓国語コースからなり、各言語の「話す・聞く・読む・書く」能力を養成します。また各言語圏における社会や文化、言語・文学について学びます。総じて、学生がワクワクしながら大学生活を過ごし、熱い気持ちで行動する人材として社会に飛び立てば、新しい学科は成功であると考えます。新しいカリキュラムは始まったばかりです。「前口上」と題したゆえんです。皆様の暖かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

新任のご挨拶



准教授 林 炫 情

4月より国際文化学部に着任いたしました林炫情(いむひょんじょん)です。出身地は韓国のソウルです。日本への留学を機に広島で十年ほど過ごしておりましたが、この度山口へ参りました。私は、日本語学と韓国語学を専門としており、対照言語学及び社会言語学の観点から日韓両言語の共通点と相違点を研究しています。また、最近では外国語コーパスの応用研究として、辞書学や教育の面での応用を目指した研究とe-ラーニングシステムによる韓国語教材開発を進めております。私が担当している専門演習では、韓国語固有の表現方法を取り上げ、日本語との対照研究観点から、韓国社会における言葉と文化の諸様相を見つける視点の確立を目指しています。今年度は、韓国の童話や歌の日本語訳・日本の童話や歌の韓国語訳をしながら両言語のオノマトペ(擬音語・擬態語)に関する絵カードをゼミ生と一緒に作成中です。来年度以降は、韓国語学概論および韓国語講読の授業も担当予定ですが、学生の皆さんが韓国語の世界や韓国文化のことをより深く、正しく理解出来るような楽しい授業にしていきたいと思っています。チャルブタクハムニダ(どうぞよろしくお願いします)。



講師 浅 羽 祐 樹

このたび、ご縁があって、山口に来ました。どうぞよろしくお願いします。国際関係論を担当しています。私の研究テーマは韓国政治、日韓関係などです。今年は年末に韓国の大統領選挙があるので、日韓の研究者による共同調査を進めています。参与観察という方法を用い、現場にいる旬の人から直接話を聞いたりもします。緊張もしますが、とても楽しい瞬間です。来年から「地域実習」という科目が始まりますが、みなさんにもぜひそうした楽しさを味わってほしいと思っています。国際文化学部での学生生活は無限の可能性に開かれていることでしょう。私自身、入る前は嫌で仕方がなかった大学が、卒業する頃には好きでたまらない宝物になりました。いい出会いがたくさんあったからです。『星の王子さま』でキツネと王子さまが仲良くなるシーンが印象的です。まずはそっとそばに座ること。しかも、毎日同じ時間に。そうすると、手塩にかけて育てている花は数ある花々の中で特別なように、互いがかけがえのない存在になる、と。国際文化学部、山口県立大学を通じて、キツネと王子さまのような出会いが広がりますことを期待しています。

国際文化学科所属教員

浅羽祐樹 安溪遊地 井竿富雄 林炫情 岩野雅子 エイミー・ウイルソン 折戸洪太 川口喜治 金恵媛 近藤淳子
ロバート・シャルコフ 鈴木隆泰 武市真弘 J.A.T.D.にしゃんた マリリン・ヒギンズ 馬鳳如 松田理 三宅義子
安野早已 吉本秀子 渡邊克義 (50音順)



山口県立大学は2006年から公立大学法人となり、2007年に学内全体の学部再編成がありました。その結果、旧国際文化学部における日本文化関係のスタッフと生活科学部環境デザイン学科に所属していたスタッフが集まって、文化創造学科が誕生しました。

当学科の教員は16名で構成されています。地域文化の発掘・創造・発信を通じて、地域の課題を解決することが学科の課題です。そのために、ひとりひとりの教員は新しい学問と創作の枠組み作りのために、国際的な視野に立ちつつ地域との繋がりをより意識し、地域と大学とのダイナミックな交流が生まれる仕掛けの準備を進めています。

大学が位置する山口は、中世大内氏の時代に文化が栄え歴代の大内氏が雪舟を中国に留学させ擁護したことや、サビエルにカトリック布教を公式に認めたことから西欧文化や科学をもっとも早く受容したことで知られています。また、明治維新でも有名です。こうした学問や芸術に大変な理解と支援がなされたこと、また新しいことを勇気をもって実行するという土地柄の環境を生かして、難関を突破して入学して来た58名の一期生には、いろいろなことを積極的に提案でき、自発性のある学生生活を先導してもらいたいと期待しています。

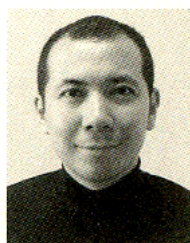
新しい学科はまだ船出したばかりです。今後は学生と教員が共にアイデアを出しながら、地域において活気と存在感を示せるような研究と創作の船旅をして行く所存です。どうか、皆様のご支援とご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。



文化創造学科 新入生歓迎パーティーにて

新任のご挨拶

講師 山口 光



国際文化学部文化創造学科に赴任しました山口光（やまぐちひかる）と申します。山口県では冗談のような名前ですが、何か運命的なものを感じております。

純粋な専門はプロダクトデザイン（製品デザイン）になりまして、日用品から工芸品・家具・福祉機器など様々なデザイン・研究をして参りました。本学ではこれらの経験を元にして、芸術・デザイン全般の科目を担当する予定です。具体的には美術・デザイン史からデザイン概論、プレゼンテーションに地域実習と分野横断型の教育展開になります。広範囲に及ぶ担当領域だと思いますが、これらを繋ぐ「企画力」を養成するのが自身の使命だと考えております。

また個人的な抱負として、「山口」の文化・地域的な資産を活用することによる「文化創造」にも大変興味を持っております。工芸から工業、ユニバーサルデザインまで幅広く対応しますので、何かありましたら気軽に御相談下さい。

文化創造学科所属教員

井生文隆 池田史子 伊藤幸司 稲田秀雄 猪又徹 加藤禎行 木越俊介 小橋圭介 小南英昭 田村洋 野口義廣
古別府ひづる 松尾量子 水谷由美子 安光裕子 山口光 （50音順）



中国人+スペイン人=Happy! Happy! in山口 交換留学生 ウルディンオルチズ・マイテ、周桂珍



何かの縁で、一人のスペイン人と一人の中国人とが山口で出会って、一つ屋根の下に住むようになりました。いったいどんな留学生活を送っているでしょう。まあまあ、落ち着いて、今からすべて披露いたします。

食：一番心配なのはやはり食事でしょう。スペイン料理と中華料理との違いが大きいけれども、二人は毎日お互いの作った料理を楽しんでいます。でも何が一番好きと聞かれると、もちろん日本料理です。

住：どうやってきれいな居心地の良い我が家を作ろうかなあ？二人は袖をまくりあげて「我が庭」を作りました。二人で作ったピーマンを味わい、そして自分たちがまいた花が咲いた時、どれほど幸せか言えないくらいです。

交流：もし我が家を一つの言葉に例えるのなら、それは「地球村」でなくてはならないでしょう。日本語は第一言語で、中国語とスペイン語が補助言語です。でも、どんな言語にも比べられないのは私たちの通じ合っている心と消えない微笑みです。

娯楽：私たちは、一年間の交換留学生生活を充実して過ごせるように心掛けています。日本の美しい景色を満喫し、いろんな友達を作って話をし、日本の伝統文化にふれ、日本での生活の楽しさを感じています。弓道、華道、空手なども習っています。

山口、この小さな町で、私たちは友誼の花を植えて、大事に育てています。そして、山口での短い留学生活は、一生忘れられない貴重な思い出になると信じています。（原文日本語）

日本で学んだこと

カナダのビショップス大学からの交換留学生 **ヘザー・コイル**



日本に来たことは、今までで一番良い決断でした。

たくさんの新しい友達との出会いをとてうれしく思っています。私の国と違う文化を学ぶことは、本当にわくわくするもので、たくさんの価値あるものを教えてもらいました。お茶の入れかたや、筆で美しく文字を書く方法や、かっこよく花をアレンジすることのような、生活する上での大切な技術（笑）を学べたことが一番良かったです。これらは、私の将来には重要なものではないかもしれませんが、いつも私の頭の片隅に残っていることでしょう。

茶道の洗練された動き。同じことでも順序を大切にしたりやり方。また、書道、華道、そして茶道における、見えない動きも大切にすること。姿勢、バランス。そして最も大切なことは、知識を詰め込む前に、見る人に感動を与える作品であること、自分自身が楽しみながらすることだとわかりました。

学んだことすべてが心に残っています。これは私の人生の中で一番わくわくする、すてきな経験でした。そして本当に面白かった!!（原文日本語）

ホストファミリーを経験して

ホストファミリー **森 中 文 江**



カナダビショップス大学からの
交換留学生ミカ・ノースとホストファミリー

ミカちゃんの第一印象は「ものすごくかわいい」でした。抱えきれない程の荷物、毛布のようなマフラー、金色の髪、白い肌、青い目。そして、私の不安は一気に大きくなりました。「この子は日本語が話せない」しかし、不思議な事に言語で不自由を感じた事はあまりありません。なんとかなるものです。最近では複雑な日本語の会話も出来るようになり、楽しい日々を過ごせています。違う言語、文化、人種などは関係ない。心が通じれば分かりあえる。こんな当たり前の事を日常生活を通して学ばせて頂いたことを心から感謝しています。これから先も、このようなチャンスがあれば参加させて頂きたいと願っています。ミカちゃんが帰国する日を今から考えただけで、少し寂しくなります。しかし、カナダに家族が出来た事を喜び、近い将来に再び会える事を夢見て一旦さようならをしようと思います。



センター大学留学体験記

国際文化学科 3年 吉田 佳代

初めての長期留学。新しい世界に飛び込む期待と、友達ができるか授業についていけるかの不安で胸がいっぱいでした。センター大学では別に留学生が珍しいわけではなく、外国人が珍しいわけでもなく、私たち日本人も彼らの社会の一員としてみなされていました。それは良いことだけど、同時に、彼らにできることが私たちにできて当たり前、例えば英語が話せるとか、宿題がちゃんとこなせるとか、そういう風に考えている節があったので、それを押し付けられればやはりそれを完璧にこなすことなんて到底不可能。色々なハンデを感じ、時にはそれができない悔しさを感じたりもしましたが、それでも楽

しく笑って過ごせたのはかけがえない友達にめぐり会えたからだと思います。あの人のここが嫌いだ、あそこが嫌いだと言いながらも、それでもあそこは好きだからあの人は友達なんだ、と胸を張って言うことができる彼らに感動しました。そして、その9ヶ月間を裏で支えてくれた家族のサポートに心から感謝します。様々な未知の発見・体験をバネに、そしてこれまで気づきもしなかった恵まれた環境に感謝して、これからも精一杯がんばっていきたいです。



ボクの「夢」、みんなの夢

国際文化学科 4年 郭 伝 コウ

ボクは中国の北京出身。6年前にたくさんの夢を抱えて日本にやってきた。社会に出る前に、日本全国を徒歩で走破するという夢を持った。しかし、足の怪我で一時的に車椅子生活となり、夢を断念せざるを得なかった。色々考えた結果、自転車ならいけるかもしれないと思いついた。2007年の春休み、鹿児島を出発し、四国を経て、45日間をかけて北海道の札幌に辿り着いた。南から北まで約2,500キロを独りで走破した。次の目標はこの夏休みに日本海側を縦断することだ。

日本の南から北へ、たった45日間であつたが、まるで一年間を早送りしたような旅だった。45日中の半分は野宿だったが、残り半分はホームステイをすることが出来た。お陰で、多くの日本の家庭を体験することができ、旅の貴重な思い出になった。ホームステイを通して、ボクは「夢」について話した。ボクの「夢」がみんなの夢とつながり、色々な支援やカンパをして頂いた。ボクは彼らにパワーを与え、彼らもボクにパワーをくれた。

旅の後、「楽しかった？」とよく質問される。ボクは、「いい旅だったよ。」と答えている。しかし、実際の旅には寒さや飢えといった肉体的な辛さや精神的な孤独が伴い、大変辛いものであった。その辛さを埋めてくれたのが、様々な人たちとの忘れがたい出会いである。旅先で出会った人々と話すことで日本という国の文化や思想、考え方にについて勉強になったと感じている。一方、旅をして日本の「もったいない現象」もよく見えてきた。その一つが、放置自転車である。ボクはこれを少しでも変えてみようと思い、旅を終え、先生の協力を得て、「自転車工房」を立ち上げた。主に校内及び地域の放置自転車を再び使えるようにし、人々に提供することで、環境問題の解決につなげたいと考えている。

山登りは辛いものだ。でも、頂上に着けば、きれいな風景が見える。そして、次の山が見えてくる。人生の生き方と同じなのかもしれない。次の夢を楽しむためにある日本の詩人はこう言っている。「やれなかった やらなかった どっちかな」。





お茶づくりに挑戦する学生たち
(山口市徳地串にて)

「存在感ある地域貢献大学へ」——法人化にともなって大学がうちだした目標です。実際にキャンパスを飛び出し、地域を教科書とし、地元のみなさんを先生とする授業が始まっています。全学部共通の「地域共生演習」では、50人の学生たちが10人程度のグループに分かれて、山口市周辺の民家等に泊めてもらって、茶摘みとお茶づくり、田植え、里山の竹切り、史跡探訪など多彩な取り組みをさせてもらっています。学生たちは地域の方々の人間力に驚きながら第二のふるさとを発見し、一方地元では、外からの新鮮なまなざしをもった学生たちとともに歩く

と思いがけない発見があると、大変な盛り上がりを見せています。これから町の祭りを盛り上げたりと活動は続きます。国際文化学部でも来年度からあらたに「フィールドワーク実践論」「地域実習」がスタートして、地域の国際化への対応や、外国での国際的な活動もふくめて、地域を舞台とする教育の動きが加速することになっています。



丸太で小屋を建てる
(阿武町福賀あつたか村にて)

地域のなかで大内氏の歴史と格闘する？

准教授 伊 藤 幸 司



日本史を専門としてしていると、必ずと言っていいほど地方自治体史の編纂作業に携わることになります。現在、私は山口県史編さん執筆委員、山口市史編さん中世専門委員、福岡市史編集委員会専門委員の3つの仕事を兼任しています。『山口県史』では大内氏の東アジア外交の概説を執筆し、『山口市史』では大内氏ゆかりの古文書の網羅的収集をしています。いずれも、約500年前に山口に本拠を定めて強大な勢力を誇った大名大内氏の歴史に関する仕事です。現在、大内氏関係史料として数千点を収集し、データベースを構築しているところです。山口では、戦前に本格的な空襲の被害を受けていないため、時折、貴重な古文書が民家や古道具屋から発見される事があります。先日も、大内氏家臣の貴重な古文書原本を発見して驚いたところです。『福岡市史』では、おもに博多の歴史について調査していますが、ここでも大内氏の存在は絶対的です。大内氏が東アジアに目を向けて山口という狭い地域に留まることなく、積極的に国内最大の国際貿易港であった博多進出を行ったためです。3つの自治体史の編纂に携わる事で大内氏の歴史的存在の大きさを再確認させられるのと同時に、大内文化の影響が現在にも脈々と受け継がれている事に気付かされます。これら3つの自治体史は、これから数年後（『福岡市史』通史編のみは約20年後？）には出版されますから、図書館などでご味読いただければ有り難く思います。

竹による地域活性化

教授 井 生 文 隆

自然界では竹林が里山を侵食し、更に森林の環境に悪影響を及ぼしています。2002年10月、萩商工会議所が「有限責任中間法人萩の竹ブランド化推進協議会」を組織化し、受託研究として依頼を受け、竹のデザインによる地域への貢献と環境保全を目的とした活動を始めました。

2003年、フィンランドの著名なデザイナー達に呼びかけ「竹のデザイン・フィンランド+日本展」を企画し、7月に「萩CNWギャラリー」（山口県萩市）で成果を発表しました。以降新しいデザイン開発を継続し、2007年までに山口で5回、京都で1回、東京で1回、フィンランドで2回、展覧会を開催しました。同時にフィンランドの大学と県立大学との学生交流展も企画・実施し、国際交流、地域貢献、環境問題、教育へのフィードバックという視点で取り組んで来ました。



それらの自然と人間のニーズに関するデザイン活動により、萩の竹のブランド化の推進や地域の発展への一翼を担えたと考えます。多くの活動の集大成として、2006年3月、「TAKE Create Hagi株式会社」が設立され、2007年に完工した新工場では、世界的に有名なフィンランドの家具メーカー「アルテック社」の椅子やテーブルが製造され、イタリア・ミラノでの国際家具見本市に出品されました。これからも社会の様々なニーズに対応

Inspired Bamboo展 2005年8月
デザイン・フォーラム・フィンランド（ヘルシンキ市）
ジェトロJapanブランド海外販路開拓支援事業。

し山口から世界に向けて発信することで、地域の活性化が更に実を結んで行くと期待しています。

卒業生近況

日本語教育のエキスパートを目指して

阿部 雄 司 (2004年3月卒業)

2004年3月に卒業した阿部雄司です。県立大学では日本語教育を学び、1年間はアメリカのCentre Collegeに留学しました。卒業後1年半は英会話AEONで、その後の2年間はCentre Collegeで働きました。AEONでは週に20時間程度のレッスンを担当するだけでなく生徒さんのレベルや目標に合わせてコースや教材をお勧めしたりビジネスにも関わりました。私は新卒でありながら採用形態が「中途」だったため教えてくれる人がおらず大変でした。Centre Collegeではアシスタントとして授業内外で学生たちの学習サポートを行う傍ら週に1回は授業を担当しました。卒業して3年になりますがこれまでの経験を生かし2007年の秋からはカナダのアルバータ州にあるUniversity of Albertaで日本語言語学の分野での修士取得を目指して勉強します。将来は大学レベルでの日本語教育に携わりたいです。



菜香亭職員として

河 井 なつみ (2003年3月卒業)



私は現在「山口市菜香亭」という施設で職員として働いています。明治10年から平成8年まで経営され多くの政治家や芸術家に愛されていた老舗料亭「祇園菜香亭」の建物を移築保存し、平成16年から市の観光・交流施設として活用されているもので、建物・所蔵品の公開や施設貸出等を行っており、山口市の新たな観光スポットとして浸透してきています。

菜香亭を知ることになったきっかけは県立大在学中からボランティアスタッフとして参加していた「アートふる山口」というイベントです。その頃はまだ市の施設ではありませんでしたが、卒業後に縁あって現在の菜香亭に職員として務めることになりました。主な職務はお客様に館内のご案内や所蔵品の説明をすること、施設に関するお問い合わせへの対応などです。人力車の運行や着物レンタルも担当しています。毎日のお客様とのふれあいや様々な事業への取り組みを通じて、山口の魅力を再発見しています。

定年を前にして

教授 武市 眞 弘



今年度末を以て定年となります。これまで皆様には陰に陽にいろいろとお世話になり有り難う御座いました。跡を濁さず立つ準備が

始まるとまた皆様にはなにかとご迷惑をおかけすることと思います。お許し下さい。

振り返っての感慨として、本当に幸せな時間を過ごさせていただきました。教職員の皆様からの暖かい御支援とそのつと接した、また今接している学生達の暖かい気配りとに心から感謝したいと思います。蒲柳の質である私が大過なく定年を迎えられるのもそのお陰にほかなりません。本当に有り難う御座いました。再拝。

教授 折 戸 洪 太



33歳で大学教員になり、ようやく生活が安定した。それからは一瞬とも、また長期間とも感じる32年間であった。体質は本来強壮ではなかったが、カゼ程度で休むことはあっても、入院することはなく、親、家族、そして多くの人たちに感謝している。

研究面では、経済学から中国を研究するという珍しいものであるため、ほとんど1人の作業であった。中国語をつかつての研究であることから、文献の翻訳に多くの時間をついやし、全体的な様子をようやく理解できる程度になっただけで、成果はまだ緒についたばかりである。

しかし、運良く道具として修得した中国語を大学で教える機会を得たことで、学生をはじめとして多くの知己を得ることができたし、また中国での調査・研究に大いに役だち、中国のいくつかの大学、多くの同攻の教員との交流に役だった。これは無上の喜びである。

どうしても執筆したいものも多く、この面ではまだ、「日暮れて道なお遠し…」の心境である。

国連大学グローバルセミナー第三回島根・山口セッション開催

教授 安野 早己

山口県立大学は島根県立大学と共同で、世界にひろがる「健康危機」をテーマとして、8月4日から7日まで、山口県総合保健会館と秋吉台国際芸術村を会場として、「国連大学グローバルセミナー第三回島根・山口セッション」を開催します。国連大学グローバルセミナーは地球規模の諸問題と国際連合の取り組みについて、大学生や若い社会人の意識を高めることを目指して、日本をいくつかのブロックに分けて（最近では韓国やハワイを含む）全国で開かれています。本セミナーは「中国・四国・九州」ブロックに対応するもので、これまで世界遺産、テロリズムというテーマを取りあげてきました。

今日、我々が日々の生活で直面する問題の多くは、新型インフルエンザの脅威、ダイエット、食品の安全性、医療の質など、健康に関わるものです。一方で、途上国では、貧困が栄養不足や疾病を招き、高価な薬の入手困難さもさることながら、医療や保健の制度も整っていません。紛争が地域住民にもたらす被害も甚大です。本セッションでは、人々の健康が危機に陥っている現状を広く認識し、NGOを含む国際的な諸活動に学び、健康実現に向けて今なにができるかを話し合います。

5月21日を締め切りとして、セミナー参加者を公募したところ、北は北海道大学農学部から、南は沖縄県立看護大学まで、全国から75名の応募がありました。プログラム委員による厳正な選考の結果、52名の受講生が決定しています。うち、本学からの応募者は14名で合格者は8名でした。目下、教職員は8月4日の開会式に向けて準備に追われています。

セミナーは講師のスピーチを織りこみながら、ゼミナール形式で意見交換し、最後に参加者がグループで意見発表するという形式になっています。ここにプログラムを紹介します。第一日目の基調講演は公開で、一般の来聴を歓迎いたします（日英の同時通訳付）。

セミナープログラム

- 8月4日 基調講演**（午後2時30分開演、於 山口県総合保健会館多目的ホール）
「健康と文明 ―鳥インフルエンザを中心に―」 尾身 茂（WHO西太平洋事務局）
「食の安全、食の安全保障、農業問題」
ヴァンダナ・シヴァ（科学技術とエコロジー研究財団）
- 8月5日 午 前 第一セッション：生命と健康**
「国連のミレニアム開発目標と女性の健康」 池上 清子（国連人口基金）
「医療とスピリチュアリティ：死にゆく人々への心のケア」
ヴァルデマール・キツベス（臨床パストラルケア教育研究センター）
- 8月5日 午 後 第二セッション：健康への脅威**
「新型インフルエンザとその世界的影響」 山本 太郎（外務省国際協力局）
「食、栄養、健康：地球規模の問題」 エンオン・ワサンウィット（マヒドン大学）
- 8月6日 午 前 第三セッション：開発と健康**
「国際協力：アフガニスタンの現場から」 福元 満治（ベジャワール海事局）
「もしも私が地球社会の保健アドバイザーなら…」
喜多 悦子（日本赤十字九州国際看護大学）
- 8月7日 午 前 グループ発表**

平成19年度 山口県立大学公開講座

～世界への扉を開こう～

●日時場所● ●テーマ及び講師●

- 5月12日(土)** 「日本のこれまでとこれから」
13:30～15:00 下松中央公民館 准教授 井竿 富雄
- 5月19日(土)** 「韓国の少子化事情」
13:30～15:00 下松中央公民館 准教授 金 恵媛
- 5月26日(土)** 「食文化における中国と日本の違い」
13:30～15:00 下松中央公民館 教授 馬 鳳如
- 6月2日(土)** 「子育ての日米比較」
13:30～15:00 下松市立図書館 准教授 ロバート・シャルコフ
- 6月9日(土)** 「道徳と宗教 ―わかっちゃいるけどやめられない―」
13:30～15:00 下松中央公民館 教授 鈴木 隆泰



公開講座の一風景

山口県立大学 夏季公開講座

対象：県内高等学校2年生または3年生（50人）
会場：山口県立大学D棟1F

◆プログラム

コース & テーマ		1. 国際文化コース やまぐちから世界へ異文化の扉を開こう	2. 健康福祉コース 健康づくり、支え合う暮らしづくりについて学ぼう
8月9日(木)	10:00	開 講 式	
	10:20	特別講義1. 「外科医からみた生命の重さ」 理事長・学長 江 里 健 輔（心臓血管外科学）	
	11:30	「山口から世界へ飛び立つ」 ～もしあなたが留学するとしたら～ 国際文化学部准教授 エイミー・ウィルソン	「看護について考えよう」 看護栄養学部准教授 吉 村 眞 理
	12:30	昼 食 ・ 交 流	
	13:50	「ファッションで文化を創る」 ～フィンランドとやまぐちをつなぐ～ 国際文化学部教授 水 谷 由 美 子	「自分の身体の音を聞いてみませんか」 看護栄養学部教授 田 中 愛 子
	14:50	「狂言を知っていますか？」 国際文化学部教授 稲 田 秀 雄	「からだの不思議」 ～なぜ食べ過ぎたら太るのか？～ 看護栄養学部教授 人 見 英 里
	16:00	8月10日(金)	
	10:00	「マリリンと英会話」 国際文化学部教授 マリリン・ヒギンズ	「元気はつらつ高齢期の食生活」 看護栄養学部講師 弘 津 公 子
	11:10	「森鷗外からみた異文化」 ～「舞姫」から「大発見」へ～ 国際文化学部講師 加 藤 禎 行	「ともに生きる」 ～まちで障害者と出会ったら～ 社会福祉学部准教授 重 岡 修
	12:10	昼 食 ・ 交 流	
8月10日(金)	13:30	「山口から一番近い外国」 国際文化学部准教授 林 炫 情	「福祉六法から日本の戦後史をたどる」 社会福祉学部准教授 内 田 充 範
	14:30	特別講義2. 「子どもから大人へ」～自分を探して～ 副学長 三 島 正 英（発達心理学）	
	15:40	閉 講 式	
	16:00		

◆申込み・問い合わせ先：山口県立大学附属地域共生センターTEL&FAX 083-928-3495
(〒753-8502 山口市桜島3-2-1)